



研究連携タスクフォースでの議論状況

○基礎・基盤研究の必要性について
 長期にわたる1F廃炉を推進する上では、中長期をにらんだ研究開発を実施する必要。特に、事業を着実かつ効率的に進めるためには、現象の背景にある普遍的原理の理解や工学的検討の礎となる基礎・基盤研究がきわめて重要。

○ニーズの明確化とシーズの探索について
 シーズ側から技術を発掘するのではなく、まずはニーズ側要求事項を明確化したうえで、それに基づいてシーズの探索を進めることが、最も確実かつ効率的。廃炉工程で将来クリティカルになりうる科学・工学上の諸課題(隠れニーズ)を明確にし、研究に必要な期間等を鑑みて、必要なものについては現時点から計画的な研究開発に取り組むべき。

○推進方法について
 廃炉基盤研究プラットフォームは、将来の廃炉事業推進においてクリティカルとなりうるものとしてNDF(研究連携タスクフォース)が抽出する重要課題に関して、東京電力を含むニーズ側と大学等のシーズ側双方の専門家を招集し、両者のコミュニケーションのハブとなり技術シーズを実用段階までインテグレートすることのできるコア人材を中心に、研究開発の検討を進めるべき。また、中長期的な基礎・基盤研究の実施にあたっては、コア人材なしコア研究を中心とする拠点が形成され、長期的に事業に携わっていくことのできる体制を検討する必要。

○重要課題について
 以上の論点を踏まえ、戦略的かつ優先的に原理の解明等に取り組むべき重要課題を抽出する。国はこの検討に基づき、平成29年度より研究開発に着手することが期待される。また、今後も重要課題の抽出作業を継続していく。



年内に中間報告をまとめ、廃炉研究開発連携会議に報告予定
 (平成29年度からの研究開発実施に関し、国及び関係研究機関等へ具体的提言)